マイコプラズマ気管支炎の咳嗽に対する麦門冬湯とヒベンズ酸チペピジンとの抑制効果の比較検討

渡邉直人、宮澤輝臣
聖マリアンナ医科大学呼吸器・感染症内科

【目的】マイコプラズマ気管支炎患者を対象に麦門冬湯とヒベンズ酸チペピジンとの咳嗽に対する抑制効果を比較検討した。

【対象】咳嗽症状で大和市立病院内科を受診し、初診時胸部X線上スリガラス等の肺炎像を認めず、マイコプラズマPA抗体価が上昇していた患者14名（全て女性、平均年齢31.8歳、喫煙者2名）をマイコプラズマ気管支炎と診断し対象とした。

【方法】H.18年8月より調査を開始し、アジスロマイシン500mg/日の3日間投与に併用薬として、封筒法によりA群（6例、平均年齢35.3歳）：麦門冬湯9g/日とB群（8例、平均年齢29.1歳）：ヒベンズ酸チペピジン60mg/日を各々2週間投与し咳嗽に対する抑制効果を咳点数で評価し比較検討した。

【結果】A群は投与5日目で初めて有意に咳点数が減少し（P＜0.05）、B群は投与7日目で有意に咳点数が減少した（P＜0.05）。また咳点数の変化差で評価すると、A群は投与5日目で初めて有意に値が減少し（P＜0.05）、B群は投与11日目で初めて有意に値が減少した（P＜0.05）。一方、朝昼夕の区別では大きな差は認められなかった。

【考察】マイコプラズマ気管支炎の咳嗽にマクロライド系抗生物質と鎮咳薬の併用は有効であることが示唆された。特に末梢性鎮咳薬の麦門冬湯は中枢性鎮咳薬より速やかに効果を発揮し、マイコプラズマ感染症による咳嗽軽減に適していると考えられた。